

ICT機器を取り入れて

情報化社会が進み、小学校では GIGA SCHOOL システムで児童一人一人が端末をもち、学習をすることが進められています。幼稚園でも、ICT 環境も整いつつあり、楊梅幼稚園では、子どもたちの遊びがより広がったり、深まったりするように保育に ICT 機器を取り入れています。その一端をお知らせします。



七夕の季節に

テラスにある大笹の近くで3歳児も4歳児も笹飾りをつくり始めました。雰囲気づくりにと、先生がタブレットと Bluetooth スピーカーを使って♪七夕♪や♪きらきら星♪の曲を流しました。曲に合わせて体をゆらしたり、知っているフレーズを歌ったりする子どもたちもでてきました。折り紙にシールを貼ったり、絵をかいたりして笹飾りが次々とできあがってきて、大笹にもちらほら付き始めました。全員で歌うことはなかったのですが、「ささのは さーらさら…」と歌声が聞こえてきました。

「次はどうするのだったっけ…」

七夕飾りの製作で、折り紙を折ったり、ハサミで必要なところだけ切り込みをいれたり、子どもにとって初めて経験することもありました。そのような中、5歳児のクラスでは先生の説明でつくった後、先生がつくっている動画（手元が見る側と同じようになるようにして）を大きなテレビ画面に映し出して、何度も繰り返し動画が流れて、つくりたい時に見てくれるように設定していました。先生に教えてもらって、作り方がわかり、できたことが嬉しくて、1作目を終えた◎ちゃんや◇ちゃん、△ちゃん。もう一度、やってみようと、たくさんの方がある、折り紙での虫かごや色画用紙の立体すいかづくりなど「次はどうするのだったっけ」とじっくり見ながら製作を進めていました。

「えーっ!さなぎからちょうちよになった!」

保育室で飼育していたツマグロヒョウモンチョウの幼虫が次々とさなぎになり、そして、朝、ちょうちよになっていることを楽しみに登園してくる5歳児。金色や銀色の斑点がついたさなぎは美しく、この後、どうなるのか不思議な思いでいっぱいでした。次々と羽化していく中で、さなぎからちょうちよになるところをみんなで見られたらいいなと先生がさなぎがぶら下がった飼育ケースと時計、タブレットを設置しました。翌日、タブレットを子どもたちと一緒に見て、朝方にちょうちよになったことが分かりました。長い時間収録していたので、ほんの一瞬の羽化でしたが、「えーっ!さなぎからちょうちよになった!」と、とても感動した子どもたちや先生でした。

幼児期は直接体験がとても重要で、諸感覚を通して感じることを大切にしています。ところが、情報社会への動きにより、バーチャルな世界が広がり、スマホやタブレットなどは、今や子どもたちの身近なものとなっています。幼稚園では、幼虫を飼育し、その生態からいろいろな思いをもったり、感じたり、観察したりすることに加え、タブレットで新たに知ったり、感じたりしています。ICT機器を使うことが直接体験をより豊かにする教材の一つとして取り入れています。

子どもたちの面白い、楽しい、なぜ、不思議、すごい、なるほど…など一人一人の感性や思いをいろいろな機会を通して大事にしていきたいと考えています。